

機会損失 再考

「機会損失」とは、以前公開した、大人の食育書「いしかわ旬の鮭だより*百選譚」ページ、コラム①「機会損失について」において、「一般的に経済用語として”最善の策を採用しなかったことによる利益の損失”のことである」と述べ、そのタイプは、

- 1) 売れ残りタイプ：準備した商品（サービス）が売れ残ったタイプ
- 2) 売り損ないタイプ：準備した商品（サービス）の在庫が切れてしまったタイプ
- 3) ないないタイプ：当初から、全く準備されていない商品（サービス）のタイプ

特に、コンピュータ上に全く現れない、3) ないないタイプに着目し、その”ボリューム”と”重要性”に気付かないことが、「真の機会損失」であると主張したものである。

最近、”機会”を英訳する”機会”があった。よく調べてみると、”Chance（チャンス）”と”Opportunity（オポチュニティ）”に辿り着いた。

さらに、その意味をよく調べてみると、

【チャンス】（運命的な）タイミングとしての機会

【オポチュニティ】努力や準備の結果によって与えられた（必然的な）機会

日本語の”機会”は、上記2つの違った意味を持つこととなる。そこで「機会損失」を違った視点から考察してみることにした。

よく、スポーツ選手の記事やインタビューで「準備を怠りなく」と見聞きする。「見習うべきである」だが、「何を準備するのか分からない」も正直なところである。また、自ら何かを”変化・変態”させる”動機”もないし、”変化・変態”した結果の”リスク”を感じ取り、結局、「リスク回避を目的とした現状維持」に着地してしまう。

チャンスとオポチュニティからの「機会損失」とは、

- 1) 絶好のチャンスであるが、準備が出来ていないことによる「機会損失」
- 2) 絶好のチャンスであるが、絶好のチャンスと判断しない「機会損失」
- 3) 絶好のチャンスであるが、逆に”リスク”と誤認・錯覚してしまう「機会損失」
- 4) 準備が十分に整っているが、絶好のチャンスと認識せず、やりそびれる「機会損失」

枚挙に暇がない。原因は”リスク”と”不安”の混同。その薬は”勇気”となる。

外部環境や要因の変化が確実に存在する状況下における「リスク回避を目的とした現状維持の施策」の結果が、ジリ貧で済めば、まだ幸いであるが、ダーウィンの進化論をなぞらえると、外部環境や要因に確実な変化が起こっている環境の下、その生命体（組織）が何も”変化・変態”しない場合は、絶滅してしまうのは、世の常。つまり、自ら「進化」しなければ、滅亡すること必至となる。なぜなら、外部環境や要因は変えられないから。